

ひまわりからの メッセージ

58号

2016. 2. 8.

西濃園域
花遊園がい文様セナ
ひまわり

発行人：中野たみ子

雪からの贈り物



今年の冬は雪が少なく、このまま春になるのかと思っ
いた矢先、雪になりました。

わが庭の柿は例年になくたわわに実りましたが、ひよど
りの姿もなく淋しく年も越しました。ところが、この雪で
一変。雪が積もったとたん鳥たちがやって来て、二三日
の間に柿を一つ残らず食べ尽くしていきましました。早朝から
仲間と呼ぶ鶉の声か冬の気の中に吸い込まれていくよう
でした。

ちょうどこの頃、東濃の保育園の保護者会から講演の
依頼を受けていましたので、雷車で出かけました。園長先
生が迎えに来て下さって山間の園まで山道を走りました。

西濃の山々は針葉樹が多く、雪が降っても山肌が見える
ことはありません。もちろん私は木々に積もった雪や花が
咲いたかのように見える白い枝の光景をいつも美しいと
思っています。東濃のその園から見える山々は広葉樹が
多いのです。冬の木々は全て葉を落として疎林となった
山肌に雪が白く残り、そこに射すやわらかな日の光に輝い
て見えました。私はその景にしぼうく立ち止まってしまいま
した。

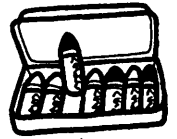
次の日、帰宅して植壇の傍を通りすぎようとした時です。
消え残った雪の間からバイオレットの甘い香りが立ちのぼ
って来たのです。よく見ると、雪の間から匂いスミシの可
憐な花々が姿を見せていました。雪のない時には摘み取っ
て鼻に近づけないと、その香を楽しむことはできないのに……
これらのことは、全て雪からの贈り物に思えました。

忙しく日々を送っている中、その間に心を安らげたくれ
る風景や小さな花の命に出合っ、いやされている自分
を感じています。季節の移ろいを肌で感じられることも
幸せなことだと思おうのです。



乳児期からのスタート

大切にしたいこと



最近、私は、子どもたちの発達に危機感をつのらせて

いて、乳児期の子どもの反応の少なさを、ことばの遅さ、

体のバランスや手指の不器用さ、目で物をとらえる弱さ、

描画の幼さ、自己コントロールの弱さ等々、気になること

がいっぱいあって、さて、私に何ができるのだろうかかと悩

んでしまうのです。

そんな時、NHKの「科学で迫る母の謎」という番組

を偶然目にしました。

女性は妊娠すると、体内にエストロゲンというホルモン

が多く作りられるようになるそうです。これは卵巣ホルモ

ンですが、胎児が大きくなるに従ってエストロゲンも多く

なっています。ところが、出産と同時にエストロゲンは

急激に減少してしまいます。

一方、母になった女性の脳では、オキシトシンという物

質が作り出されます。ネットで調べると、愛情ホルモン
とか言われているようですが、子宮の収縮を助け、子ど
もへの愛情を深めます。

ところが、エストロゲンの減少による不安感と、吾が

子に対する愛情は時として他への攻撃性ともなり、夫

に対して「何もやってくれない」という不満となって

子どもが〇〇二歳の夫婦に最も離婚が多いとテレビは

伝えていました。

赤ちゃんは、しばらくは夜泣きをします。出産後のお母

さんは、夜泣きで悩まされることが多いのですが、実は、

赤ちゃんはおなかの中で、お母さんへの負担をなくすた

めに夜起きていくということがわかってきました。だから

出産後もしばらくは胎児の時の生活リズムが残ってし

まうということのようです。そう考えると、夜泣きもいと

おしく思えるのではないだろうか。

ところで、子育てのことで、人類と他の動物との子育て

で大きな違いは、何だと思われませんか？、七〇〇万年前の人

類発生から人間だけに見られるのが、「共同養育」である

と番組は伝えていました。つまり、もともと人間は母一人で

子どもを育てることは向いていないということのようなのです。番組ではアフリカ奥地に住む種族を取材し、そこでの共同養育のようすを放映していましたが、そうしてみると、現在の我が国の核家族化は、人類のもつDNAに反したものだ、と言えろのかもしれない。

実は、私は長女の出産当時は栃木に住んでいました。そして産後うつに苦しんだことがあります。NHKの番組を見ていて自分のことを思い出し、産後の女性がおちいりやすい心の不安定さを改善していく手だての必要性を改めて思いました。若いママの不安を理解し支えていく場がこれから益々必要になります。虐待が育児不安とも関係している場合はあるでしょうから……。

さて、育児がお母さんに任せられ、核家族の中で子育てをさせていく時、私が気になるのは、母と子の関係です。乳児期というのは、言うまでもなく脳の可塑性がとてつもない時期です。赤ちゃんは、話すことはまだできないけれども、「ことば」の基礎としての聞くカや、ことばと物、ことばと動作など言語理解に関する力、人と人とのやりとりの

力、人と共感する力などを培っています。目に見えることとは、主に体の発達です。首のすわり、寝返り、這い這い、つかまり立ち、独歩などですが、実は目には見えないけれども、赤ちゃんは周りの人たちから様々な刺激をもらい、自分からも発信しながら脳の中で様々な力を育んでいるのです。

片手で赤ちゃんを抱きながらスマホに見入っているお母さんや、お子さんが声を出して語りかけてくるのに応えてあげないお母さんも昨今日につくようになりました。

子どもは放っておいた方が必要な刺激(情報)がもたらさないんです！

人と人との関わりを通して「楽しい」「うれしい」を共感して、社会性を身につけていきます。

人間の子は未成熟で生まれてきます。他の動物は生まれた直後に歩けるし、ことば(鳴き声)も出せるけれども人間は一年以上かけてやっと人間としての機能に辿りつくのです！

そんなことばが、どの位虚しいかと思いつつ、もっと具体的にわかるように言っておあげられない焦りもあります。

子どもとの接し方、話しかけ方、遊び方など母と子のか
かわりと同時に、お母さんがお母さんとなっていていた
だけるように支えられたらいいなあと思います。

昔、実存主義という考え方が流行った頃、その中心的
役割を果たしていたホーヴァール女史は、女性のこと
を「女は女に生まれ、女になるのだ」という有名な
ことばを残しました。女性の権利が著しく低かった時代
のことです。おそらく意味は違いますが、私は、母も
出産してから母なのではなく、子どもの成長に伴い母とし
て共に成長して母になっていくのだと思っています。

女であり、妻であり、主婦であり、職業人であり、母で
あるという多くの顔ももちながら生きさしていくわけですが、
母というものには「子どもを育てる」という責任がありま
す。それは、人によっても、とでもとも重いものでしょう。

でも、子どもが小さい時には、しっかりと子どもと向き
合ってほしいのです。子どもの表情を見守り、ことばを添
え、一緒に遊び、一緒に楽しんで子どものことばに応え
て、共感の関係をつくってほしいのです。そして、困
った時や悩んだ時には是非助けを求めてほしいと思いま

す。人間の子育てのみが共同養育をするのだという前
述の話も思い出して下さい。

人に助けってもらっていいのではないのでしょうか。
自分一人でやるべきことはありますが、完璧でなく
もいいと思うのです。

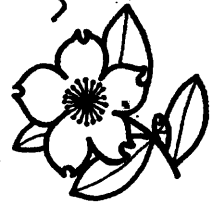
子どもと向き合うこと、それだけは忘れずに！

< 子どもの発達 >

- 1の字を書く、1歳児(直進してしまう)
- 2歳になると「選びたい!」「自分のつもり」出てくる。
- 「ジブンデ!」とやりたがる 3歳児
抽象概念(形、色、大きさ)がわかってくる。
- 4歳児 「〜ダケレド」〜ダ」
「〜シカラ 〜スル」
気持ちのコントロールができてくる。
「中くらい」が分かってくる。
- 就学までに育てておきたいこと。
 - ・ 体づくり(バランス、ボディイメージ)
 - ・ 基本的な生活習慣(食事は座って、お着使用、入浴、片づけ)
 - ・ ことばのやりとり(話す時と聞く時のメリハリ、文章表現、困ったときに訴えられる力など)
 - ・ 社会性(がまんする力、ルール理解)

将来の自立に向けて

く引き継ぎ会で思うこと



二月に入って、大垣では園↓小学校、小学校↓中学校への「支援のひきつぎ」が始まりました。全員ではなく、サポートブック（大垣ではスマイルブックといっています）を持っていて、保護者が希望される方のみですが、その数は年々増えています。

そこに同席させていただいて気になることがいくつかありました。（私の感想だと思っただきたいのです）
というのも、この仕事を長くやそきて、私たちが生きていくために（もちろん子どもたちも含めて）どんな力が必要なのかとずっと考えてきました。そして、学力も大切だけれども「自分のことは自分でする」という、最も基本的なことが、最近ないかしろにされているのではないかと思っっているのです。

保育園時代から、支援が必要だから……と如配の職員が配置されます。学校でも特別支援学級でさえ

支援員が配置されます。もちろん、支援の方がいることが悪いわけではなく、大いに望ましいことです。しかし、その中で、子どもたち一人ひとりにどの様な「生きる力」をつけていくのか、家庭との連携の中を話し合われていくのか……と、ふと疑問がわきました。

小学校入学までに、体の中心は育っているのでしょうか。よく動く子が全てA/D/H/Dではありません。体がしっかり育っていないので姿勢保持もむづかしいし、注意も持続しません。体づくりは家でも考えるべきことでしょう。

家庭のルールのなさも気になります。ゲームの時間が決まっていないことや、就寝時間の遅さも気になります。お箸や鉛筆のもち方、はさみの使い方はどうでしょうか。片づけは身につけているのでしょうか。「自分の興味のあることはずっとやっていますが、嫌なことはやりません」と言われるけれど、学校で好きなことだけやっていることなど出来ないことです。「興味のあることや好きなことを自分で止めることはできますか?」と聞く活ということに、私たち大人はもっと真剣に考える

べきではないでしょうか。

中学校への入学も同じことが言えます。お子さんは靴ひも結びができませんか？ スポンのベルトは自分でできませんか？ 給食のエプロンは？ 通学は自転車通学でしょうか？ 教室移動は？ 提出物は？ 細かな生活の中の一つひとつを見直しているでしょうか？ とても心もとない気がしませんか？

あるOBのお母さんが言ってるウツリッシャツたことを思い出します。

「うちの子は、いつか一人で生きていかなくはなりません。だから料理にしても自分でできるように、小さい時から家でやらせてきました。おそろくうちの子は成人しても車の運転免許を取ることは難しいと思います。そう考えると、遠くへ行く手段は自転車、もっと遠くはバスか電車です。自転車に乗れること、信号を正しく渡ること、切符を買うことなども課題にしてくださいました。買物にしても一つ一つ教えていかねばならないし、生活の中の細かなことが全て課題です。で

も、こんなことは学校ではやってもうえませんが、自分で親として、自分の子に何が必要なのか考えていかななくてはいけないと思います。でも、しんどいです。……と。

けれども、もし、小学校で数年先の中学校で必要になることを保護者の方に話しておいてただければ、そして家庭と一緒に関わりのお子さんについて、将来の見通しに立った今の課題を考えていただけたり、とお母さん方の見通しも立つのではないかと思ったりします。

昔に比べて福祉サービスは充実し、支援してただけすることも多くなりました。でも、もう一度、子どもの将来を、親として、又、保育人者教育者として考えてみようではありませんか!!

お知らせ

三月例会は十四日(月)です。ひまわり学園内で行う最後の親の会となります。

四月からは会場をかえて行います。

